SCOTT サマーズ vs RANDYホーキンス in AAGPしどき（1998年）

AAGP

それまで統一競技規則が無く、故に競技の発展が乏しかった日本クロスカントリー界においてその必要性とAAを頂点としたクラス分けの提唱をネーミングに込め誕生した **AAGP** は2024年で30回を重ね、今や我が国を代表するオフロードモーターサイクルの国際大会として **東洋最大** 、そして世界では第２位の規模となりました。

これまで参戦した **世界のビッグネーム** は **RANDYホーキンス　SCOTTサマーズ　LARRYロズラー　JASONレインズ　STEVEハッチ　PAULウェブリー　RODNEYスミス　CHARLIEムリンズ　THADDEUSテュバル　KAILUBラッセル　JOSHスツラング　JORDANアッシュバーン　TREVORボリンジャー　RICKYラッセル　CRAIGドロン　STEWARDベイラー** など **34人**。
（複数回参戦計では50人、ハリケーンエンデューロを含む）

また会場は出場への公平な機会を与えるために全国展開し、　スポーツランド菅生　チェズナッツパーク　テージャスランチ　グリーンバレー森羅　飯ケ岳スキー場　と転戦し、現在は **JNCC & WEX** のホームコースであり我が国最大のウッズエリアを有する **北恋賀高原 高井富士スキー場** で開催されています。

2023-AAGP に GNCC より派遣された **STEWARD ベイラー**

What's JNCC ?

JNCCとは Japan National Cross-Country の略で、競技用モーターサイクルを用いたアマチュアライダーによる「全日本モーターサイクルクロスカントリー（XC）選手権」です。
今 子供達の携帯電話依存症やバーチャル指向が社会問題になる中、**MCクロスカントリーはエコロジーに配慮した競技用のモーターサイクルを駆り、自然のありのままをコースに利用して行うリアルなモータースポーツ** として、世界中で注目を集めています。
モトクロスという造成されたコースで速さを競う競技もありますが、JNCCが開催する MCクロスカントリー はクローズドされた丘陵地や森、そして時には岩地や湿地帯などの自然のフィールドをバイクで越えていくという競技であり、多くのストレスを抱えた現代人に「明日の活力を与える」と言っても過言でない、**ワクワクドキドキの冒険が散りばめられた心躍る魅力に溢れたスポーツ** なのです。
しかし自然の中でのモータースポーツと聞くと誰もが環境への懸念が先立つかもしれませんが、JNCCは自然との共存と調和を常に念頭に置いてエコロジーに添った対策を行っています。使用する競技車両は厳しい排ガス規制をクリアしているのでその排気はクリーンで、ありのままの自然の中を走る競技故に木々を伐採し消失させる事もありません。
また2021年からはスキー場開催において **「地面の掘り起こしを抑制する為にタイヤブロック高を13mm以下と低くした FIM規格タイヤ」** を出場車両の装着条件とした政策を二輪界に提唱し施行するなど、更に推し進めたエコロジー活動を行っています。
JNCC はスピードを競う競技ではありますが、時には厳しさが牙を剥く自然の中で自らを信じ完走を目指す競技です。　2018年には5才から小学２年生へ向けた FCX（無料チャイルドクロス）クラスを新設し、**理性を養いフェアプレイの精神を学んで頂きたい** と全国で開催を行なっています。

４つの神器と　全コースSPOT散水

神器などと言うとすごく大げさに聞こえるかもしれませんが、スキー場などの高低差がある広大なコースを利用するJNCCにとって、２台体制の **「パフォーマンス バギー」「大型草刈機」「4WD散水車」** のそれぞれは、迅速な救護と会場管理、視認性を向上させる広大エリアの草刈、そして今後 益々重視されていくであろうアウトドアスポーツのホコリ対策に不可欠であり、設備投資リスクは大きいものの 年２５開催を高次元で行う **JNCC & WEX** にとって、不可欠で頼もしい相棒なのです。

☆　**進行する高温乾燥化に向けた JNCC「全コース SPOT散水」政策！** ☆

オフロードレース界における近年の **「ホコリによる視界不良レースの危険性は高まるばかり」** で、待った無しの対応を行わなければなりません。
JNCCが2024年から打ち出す **「全コース SPOT散水」** 政策は、10kmにも及ぶXCコース全域に **要所々スポット的に散水を行い** レースにおける安全性とレース環境を保つというもので、複数台の 4WD散水車 が必要になるなどかなりの負担になりますが、オフロードレースの未来の為に **政策を提唱** しながらやり遂げなければなりません。
まずは乾燥の程度により３台までの 4WD散水車 体制で行いますが、コースのホコリ発生をどの程度抑えられるか？　どうぞその効果をご期待ください！

オフロードレーシングの未来に向けた　JNCCタイヤ規制

オフロードレーシングにとって開催コースは非常に重要で、**コース確保は競技の栄枯盛衰に直接影響** いたします。　近年コースは減少傾向が続き誰もが危機感を抱いていると思いますが、そんな中JNCCが提案するのは **スキー場のグリーンシーズン利用** です。
歓迎出来ることではありませんが我が国のみならず世界のスキー場は温暖化の影響で、廃止追い込まれたり営業期間が短縮されたりと深刻な過渡期に入っています。
このような状況下においてモーターサイクル競技の開催提案は受け入られやすいかもしれませんが、ただし開催を **持続させることは簡単なことではありません。**
競技に用いるオフロードタイヤは **「グリップを得るために土面を削るような仕様」** となっており、JNCCレベルの開催を一回でも行えば 広大なグレンデを一気に荒廃させ、スキー場が想定していない損害を与えてしまう恐れがあるのです。
この大きなハードルを乗り越えてスキー場と Win Win の関係で同じ方向を向き、オフロードレースを持続開催するために提案するのが **「JNCC スキー場タイヤ規制」** です。　2021年から **「土面の荒廃を防ぐ目的で作られた FIMタイヤ」を出場条件** とし、2024年からは **「土面の削りが特に著しい Hi-GRIPタイヤ」を規制** し、全国各地のスキー場に **経済効果が得られる開催提案** をしながら信頼関係を深めて参りたいと思っています。　この政策により **「我が国の500を超すスキー場が魅力的な オフロードコースとして利用出来る」** という 夢のような可能性が生じますので、二輪オフロード界の未来の為に どうぞ応援してください。

JNCCヒストリー

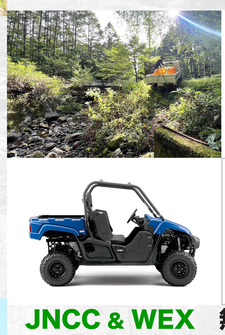
JNCC代表 星野正美は1984年から関東を中心にXC開催を始め、1987年 友人で世界的に有名なアメリカ人MXライダー **Bob Hurricane Hannah**（ハリケーンハナ）をゲスト招聘し行なったのがハリケーンエンデューロの始まりです。
以来ハリケーンエンデューロは毎年世界の有名なXCライダーを招聘してきましたが特にUSAからの親善大使として10回の出場を果たした **Randy Hawkins** の日本XC界への貢献度は大きく **「日本のトップライダーは彼と走ることで世界のレベルを知り、またその背中を追って速くなって行った」** と言っても過言ではないでしょう。
そして1995年には **「それまで統一されたクラス分けや競技規則が無かった日本MCクロスカントリー（XC）界に AAを頂点としたクラス分けと統一競技規則の確立を提唱し、大会名称をそのメッセージを盛込んだ AAGP と改め」** 現在に至っています。
AAGPの歴史は正に日本XCの歴史です。
2004年には日本XC史に残るであろう SERIES 全日本XCエンデューロ選手権 が誕生しましたが、AAGPはこのSERIESでも最終戦として大きな重責を果たしてきました。
そして2006年、AAGPで提唱してきたAAを頂点とするクラス分けも統一競技規則の確立も定着してきたことにより、AAGPは更なるステップとなる **全日本クロスカントリー選手権 JNCC** へと進む事になったのです。

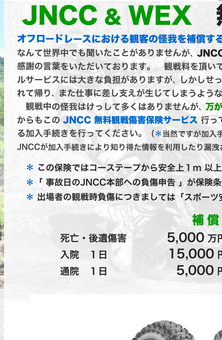
GNCCと 相互派遣

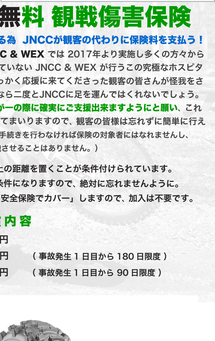
RANDYホーキンスが来日する度に、GNCCが創り上げていった高いレース文化とその世界最高峰XCの素晴らしさを聞き重ねたJNCC代表 星野正美は、GNCCのトップライダーをなんとか日本で走らせる事ができないだろうかと一念発起し、USA東海岸はウェストバージニアにあるGNCC本部を訪ねたのが始まりです。
記念すべく初GNCC公式派遣となり2006年-AAGP管生 に送り込まれたライダーは **PAULウェブリーと ROBBIEジェンクス** の精鋭二人で、前日土曜日に何度も真剣にスタート練習を繰り返す二人を見て、物見遊山ではない真剣さとスタートから飛び出せないと勝てないであろうと思わせるGNCCの次元の高さに、カルチャーショックを覚えたものでした。　またこの大会で二人を迎え撃った全日本MXチャンピオンの **小池田 猛** は、このAAGPで彼らとバトルしたことが人生のターニングポイントになり、2012から４年間 日本XC界のパイオニアとしてGNCCシリーズ参戦を行い帰国しました。
一方 **アテンダー付き海外参戦全費用をJNCCが負担する** JNCCのGNCC公式派遣は2009年から始まりこれまで多くのライダーを送り出し現在に至りますが、JNCCはこれからも日本人ライダーに大きなチャンスを提供し続け、個人では実現が困難な **世界への挑戦を 理想的な体制で支援** して参ります。

What's WEX ?

JNCC **ジュニアXC- WEX** は 自然の中で行われるモーターサイクルXCの醍醐味をより多くの方に知っていただこうと、入門者から中上級者までを対象に行われるXCです。**「50ミニッツ」「90ミニッツ」「120ミニッツ」** の 3レース展開は誰もが主役になれる **23のクラスを用意** し、更には **EAST**（東日本） **WEST**（西日本） とシリーズエリアを二分することで、**全日本選手権のJNCCよりも出場を容易** にしています。
「Wシリーズ展開」「上級者規制」「計測ノンストップ・リアルタイム順位表示」「LIVEリザルト」「固定ゼッケン制」などハイレベルな競技志向を打出しながらも、一方で 公道走行車で出場可能な「テーピングクラス」や「モペットクラス」を用意し、より多くの人が出場しやすい **カジュアル性も持ち併せ** ています。
また JNCCに参戦したくても遠征出来ないという中上級ライダーの為に「120ミニッツ」はやや本格的なコースレイアウトにし、ロコライダーの熱い走りにも応えます。
その他にも全戦において JNCC-AAライダーによる **「実戦的セクションスクール」を無償で提供しながら「救急救命チーム派遣」「警備員派遣」「AED配備」「女性専用トイレ設置」** 等のホスピタリティを充実させ、XCレースは未経験だけと興味が有るという方や、長い間遠ざかっていた方でも安心して出場できる環境を用意しています。







JNCC & WEX　無料 観戦傷害保険

オフロードレースにおける観客の怪我を補償する為　JNCCが観客の代わりに保険料を支払う！
なんて世界中でも聞いたことがありませんが、**JNCC & WEX** では 2017年より実施し多くの方々から感謝の言葉をいただいております。　観戦料を頂いていない JNCC & WEX が行うこの究極なホスピタルサービスには大きな負担がありますが、しかしせっかく応援に来てくださった観客の皆さんが怪我をされて帰り、また仕事に差し支えが生じてしまうようなら二度とJNCCに足を運んではくれないでしょう。
観戦中の怪我はけっして多くはありませんが、**万が一の際に確実にご支援出来ますようにと願い**、これからもこの **JNCC 無料観戦傷害保険サービス** 行って参いりますので、観客の皆様は忘れずに簡単に行える加入手続きを行ってください。（※当然ですが加入手続きを行わなければ保険の対象者にはなりませんし、JNCCが加入手続きにより知り得た情報を利用したり漏洩させることはありません。）

＊ この保険ではコーステープから安全上１m 以上の距離を置くことが条件付けられています。
＊「 事故日のJNCC本部への負傷申告 」が保険条件になりますので、絶対に忘れませんように。
＊ 出場者の観戦時負傷につきましては「スポーツ安全保険でカバー」しますので、加入は不要です。

補 償 内 容

死亡・後遺傷害	5,000 万円	
入院　1 日	15,000 円	（ 事故発生 1 日目から 180 日限度 ）
通院　1 日	5,000 円	（ 事故発生 1 日目から 90 日限度 ）

出場条件に課される **FIMタイヤ装着** は **COMP**全クラス **FA SA FB** となり、**後輪のみで前輪は対象外になります。**

JAPAN NATIONAL CROSS-COUNTRY